



## 編集月旦 2013年8月号

★戦後68年目の「終戦記念日」。8月15日の正午。310万人という戦没者に1分間の黙とうをささげました。「全国戦没者追悼式」(武道館)には、最高齢大正3年生まれ99歳の女性が、戦争で亡くした夫と家族の慰霊のために参列していました。同じく戦争で夫を亡くし、いまだ健在でおられるという疎開先の「如座春風」先生のやさしい姿を重ねて思い起こしました。

☆天皇のおことばは「本日、戦没者を追悼し、平和を祈念する日にあたり・・・深い悲しみを新たにいたします・・・ここに歴史を省み、戦争の惨禍が再び繰り返されないことを切に願ひ・・・世界の平和とわが国のいっそうの発展を祈ります」というものでした。恒例のおことばでしたが、「平和を祈念する」ということばに思いを感じました。

★「歴史に学ぶ」とはどういうことでしょうか。外交的に孤立し、「国防軍」を保持するための「憲法改正」をし、世論がそれを支持するとなれば、日本は「歴史に学ばない国」という批判がいつそう強まることとなります。これらの動きは被災各国にとってはかつてたどった悲惨な過去を想起させるからです。14年にわたった戦争は、軍の独断専行ではじまり、世論を味方につけて強行し、国際的に孤立し、ついに振り子は極限まで振れて敗戦によって終わりました。「平和」は、みずからの手でかちとったものではありません。国際的孤立と国防軍依存とそれを支える世論の醸成という三本の道を阻止してはじめて、日本は「歴史に学んだ」国として、「平和」をみずからの手にします。そのためになすべき政策は、「国から地域へ」です。「特性を活かした地域の発展」への国民運動こそが、国防軍によらずに国を護る意識を醸成し、地域の力を興すこととなります。これならどこの国からも批判を受けることはありません。

☆「地域」へ。高連協フォーラムでは、堀田力代表も樋口恵子代表もともに「地域」への働きかけを呼びかけています。3000万高齢者層による国民運動として、急ぎ動き出さねばなりません。「人からカネへ」の安倍経済政策が破たんしてからでは遅いからです。☆年金暮らしの高齢者、中小企業関係者、非正規雇用者など、まだ「アベノミクス(金融緩和)」の恩恵を受けていない人にはもう恩恵はありません。2年で2倍にという「異次元の金融緩和」によって「豊かになれるもの」はすでになっています。「みんなで豊かになろう」とした戦後政治の立場とは基本的に違いますから、年金暮らしの高齢者層にその恩恵が届くことはありません。格差が拡大してゆくことだけは実感してのとおりです。

★まだ「人生65年時代」の余生と暮らしている高齢者が多くいます。「人生90年(65+25)時代」の現役シニアを意識して暮らさないと、この国の「高齢社会」は達成されません。とくに男性は、日ごろの「アンチエイジング」によって「健康・知識・技能」のバランスを高めてご夫婦の平均寿命の差を縮めないといっしょに終われません。

★成田市生涯大学院36期生のみなさんと「人生90年」の上手な生き方について考えました。専門講座は園芸・陶芸・書道・油絵・体操・音楽という「技術」系の個人的関心の高い6講座で構成されていて、高齢期に必要な「知識」は一般教養としてみんなで共有して学んでいます。まず自分が夢中になって楽しんで、クラスみんなで切磋琢磨して楽しんで、その後に市民みんなと楽しむという形に特徴があります。3年の間に生涯にわたる学友を得られることが何よりの人生支援になるものと納得されます。

★一人ひとりが長寿を喜べる「日本長寿社会」の達成とアジアに住むみんなが等しく豊かさを享受する「アジアの共生」は、ふたつながら平和の証であり日本高齢者の課題であり本誌の課題です。(編集人 記)

